

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2024年	2月	23日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	荒井	垣内	久門	島田	鶴田
	横山				
取材対象先	生駒市：石仏寺の石造阿弥陀如来坐像他2躯				

所在地	生駒市藤尾町96				
所有者(取材 対応者)名	石仏寺 関伽井(あかい) 保樹	連絡先 0743-77-8474			
	住職 (個人情報守秘)	PCアドレス			
取材申込	申込先・行政名など：石仏寺・関伽井保樹住職				
市町村 指定文化財	彫刻	3 軀	石造阿弥陀如来坐像、石造阿弥陀如来立像、石造地藏菩薩立像 いずれも2015(平成27)年3月23日指定		
	建造物	棟			
文化財指定理由	伊派の石工が制作した石造仏像で、鎌倉時代の石造美術史の一端を担う貴重な資料群といえる。				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	本堂には消防関係の機器は設けていないが、住職家族の住まい(庫裡)と接続しており、危急の場合は消火器を持って駆けつけられる。	市指定文化財は石造仏だが本堂防火のため火災感知器の設置が望ましい。
	被害の有無、対策など	記入者の感想
獣害対策	生駒山ろくに位置しており、近所ではイノシシ、アライグマなどが出没し、農作物に被害が出ている。幸いお寺には被害はない。	引き続き本堂に被害がないことを祈りたい。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	鎌倉時代後期に伊派石工の伊行氏(いのゆきうじ)が1294(永仁2)年に阿弥陀如来坐像、1306(嘉元4)年に阿弥陀如来立像を制作したことがそれぞれの光背銘から確認されている。地藏菩薩立像もこの時期の行氏の作とみられている。仏像自体の材質から火災による焼失の不安は小さいと思われるが、かつて阿弥陀如来坐像に後部の光背が地震の揺れで倒れかかったことで損傷したことがあり、転倒防止などの対策が必要と思われる。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

石仏3軀が厨子内に安置されているが、正面の間口は中央の阿弥陀如来坐像をメインに想定した幅になっている。向かって右の阿弥陀如来立像、左の地藏菩薩立像はそれぞれ斜めからしか拝観することができない。寺の創建は阿弥陀如来坐像完成時に近いとみられており、その後に当初予定のなかった左右の石仏を間口を広げず安置することになったようだ。1978(昭和53)年に本堂が再建されたが、同じ間口を維持したという。

市町村指定文化財取材票《裏》①

取材日	2024年	2月	23日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	荒井	垣内	久門	島田	鶴田
	横山				
取材対象先	生駒市：石仏寺の石造阿弥陀如来坐像他2 軀				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 石造阿弥陀如来坐像、石造阿弥陀如来立像、石造地藏菩薩立像

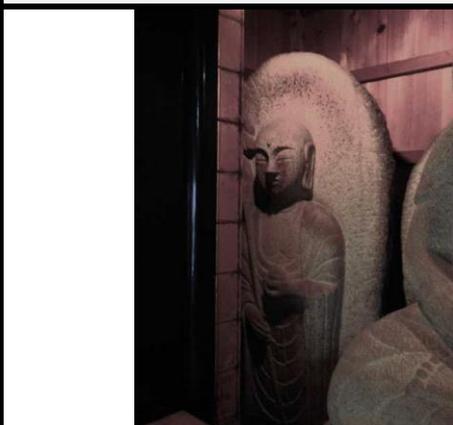
本堂の厨子内に並ぶ石造の3軀

石造阿弥陀如来坐像 (3軀の中央)



石造地藏菩薩立像 (3軀の向かって左側)

石造阿弥陀如来立像 (3軀の向かって右側)



文化財の由緒などを記入

所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入

石造阿弥陀如来坐像(像高100cm)、石造阿弥陀如来立像(同139cm)、石造地藏菩薩立像(同139cm)はいずれも花崗岩で制作され、生駒市壱分町の無量寺の五輪塔(高さ86cm)と合わせて4点が「伊行氏関連石造遺物群」として2015年に市文化財に指定された。阿弥陀如来坐像は別石の光背をもち、光背の向かって右に観音菩薩、左に勢至菩薩(共に像高35cm)が肉彫りされた三尊様式になっている。

お寺は鎌倉時代に創建され、江戸時代中期の元禄年間までは阿弥陀三尊石仏を本尊とする浄土宗系の寺院だったこと以外、詳しいことはよく判っていない。(以上、石仏寺パンフレットから要約)石仏寺は江戸時代後期に融通念仏宗となり、本尊は十一尊天得如来画像に。3軀は戦後、秘仏とされた時期もあったが、1993(平成5)年ごろに公開となり、拝観しやすいよう照明も設置された。

市町村指定文化財取材票〈裏〉②

取材日	2024年	2月	23日	(記入者) 久門たつお	
取材参加者	荒井	垣内	久門	島田	鶴田
	横山				
取材対象先	生駒市：石仏寺の石造阿弥陀如来坐像他2躯				

〈写真撮影許可済み〉

文化財指定名 石造阿弥陀如来坐像、石造阿弥陀如来立像、石造地藏菩薩立像

石造阿弥陀如来坐像（中央）など石仏3躯

1978年の本堂再建時に撮影された3躯の写真



石仏寺の本堂

生駒市教育委員会設置の説明板



伊派石工について

石仏寺近くの旧道沿いの石仏（鎌倉時代）

伊派は鎌倉時代の初めに、鋳物師・陳和卿に従って南宋から来日した伊行末を始祖とする宋人石工集団で、東大寺の大仏などの再建に携わった。その後も日本に居住し各地で石造物の制作活動を展開した。石仏寺は奈良と大坂（大阪）を結ぶ主要道路の暗越奈良街道（現在の国道308号）に面している。同街道沿いには石造遺物が多く残っており、伊行氏制作の石仏は応願寺（生駒市萩原町）にもある。

